

8月6日(日) 第二礼拝 「祈りの祝福」 ルカ3章21-22節

私達は、イエス様の祈りの生活から祈りの祝福を学ぶことができます。イエス様の生涯は祈りでした。イエス様が祈られる時、聖霊が臨み、天から神の声がしました。

第一番目、天が開きます。バプテスマのヨハネからバプテスマを受けるために、イスラエル全土から人々が集まって来ました。ヨハネは群衆に向けて「まむしのすえたち。…悔い改めにふさわしい実を結びなさい。」と叫びました。その頃、イエス様も、ヨハネからバプテスマを受けるためにやって来られました。ヨハネはびっくりしましたが、イエス様は天の父の御心に従順されバプテスマを受けました。バプテスマとは十字架の死と葬り、そして甦りを意味します。初めのバプテスマは、イエス様が天の御座を捨てて、この地上(飼い葉おけ)にお生まれになったことです。二度目のバプテスマは、ご自分を無にして、神様の在り方を捨てて、ヨハネからバプテスマを受けられたことです。イエス様は罪のない方ですが、私達の罪を背負って、ご自分が罪となられたのです。三度目の本格的なバプテスマは十字架です。イエス様は私達の罪と共に葬られ、よみに下り、三日目に甦られました。イエス様がバプテスマを受けて祈られた時、天が開きました。天が開くとは、神様の喜びを意味します。私達も天が開く信仰生活が必要です。天が開く時、私達は祝福された人生となるからです。では、どのようにしたら天が開くのでしょうか。私達のプライド(自我)がキリストの十字架につけられる(死ぬ)ことによってです。私達のプライドは、善悪の知識の木の実を取って食べた結果であり、サタンの声に騙されてしまったことによります。自分を神だと思い、自分の思い通りにしないと、私達は怒るのです。このプライドが優越感や劣等感になり、私達は本来神様の御心を成し遂げることができません。ローマ7:24-25「私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるでしょうか。…」このように、私達が自分の死を認める時、復活したイエス様が、私達の内にと働いてくださるのです。

第二番目、聖霊様が鳩のように臨みました。イエス様が神様に従順され、聖霊様が下られたのを見たバプテスマのヨハネは、このお方がメシア(キリスト)だと悟りました。そしてヨハネは、イエス様がメシアだと明言し、イエス様こそ聖霊によるバプテスマを授けるお方だと人々に伝えました。ヨハネ20:22 イエス様は聖霊を受けなさいと言われました。また、ルカ1:41 マリアの挨拶を聞いて、エリサベツの胎内にいたヨハネは胎内で踊り、エリサベツは聖霊に満たされました。ですから、胎児から大人に至るまで聖霊充満となるように、私達は祈るのです。聖霊様は求める者に臨まれます。また、聖霊様が臨まれる時、悪霊は追い出されていきます。

第三番目、天から声がしました。「これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。」イエス様はあらゆる攻撃を受けていましたが、神様の愛の力に信頼し、十字架にかかり、圧倒的な勝利をしました。同じく、不法がはびこっている終末時代に、私達もまたイエス様の愛を持って圧倒的な勝利者となることのできるのです。アーメン！